

第6回長野市総合計画審議会（H18.8.7）議事の内容

議事（1）

第四次長野市総合計画基本構想の素案について事務局から説明

- ・『きらめく』という言葉はきらきらと輝くというような意味なのか。第三次長野市総合計画でも『きらめく』とあったので、またかという感じがしたのだが。  
合併した新長野市の地域そして人がそれぞれ主人公であり、輝く、きらめく、いきいきとして、そういった意味合いを込め、人と地域がそれぞれきらめくということで『きらめく』という言葉を使っている。
- ・『きらめく』という言葉は、人々がそこでいきいきと、その人らしく、光が当たり、そしてその光を当て合いながら生きていけるという意味からすると、悪くはないと思うのだが、最近はこちらで『きらめく』という言葉が使われすぎていて、手垢にまみれているという感じがしないでもない。
- ・『きらめく』と聞いたときに、第三次長野市総合計画の『きらめく』という言葉と同じようなイメージを受けてしまう。もっと良い言葉を皆で考えられたらと思った。
- ・『～善光寺平に結ばれる～』とあるが、合併して長野市となった鬼無里や戸隠などの人たちは『善光寺平』という意識があるのだろうか。『善光寺平』というと普通は平らな地域を表すので、山間地も含まれた位置づけになったのだろうかと思った。善光寺は、長野のイメージを付けるにはとても良いと思うが、『善光寺平』という括りにしてしまってもいいのか。もう一度検討してもらいたい。  
大岡、鬼無里、戸隠といった合併地域も含め、信濃の各地が『善光寺平』を介して互いに結ばれ、一つになっている。それは、古くから地域の文化的な結びつきも深いという意味合いと、人や産業や文化など、様々なものが『善光寺平』に結ばれ、互いに活気ある長野市にしたいという意味合いから『善光寺平』という言葉を使っていきたいと考えたものである。
- ・視点2の最初の【「長野らしさ」をいかしたまちづくり】という表題の次の行にも『「長野らしさ」をいかし、』とあり、だぶっている。この『「長野らしさ」をいかし、』という文言は抜いて良いのではないか。『「地域」の魅力とそれを支える「人」の力』こそ、「長野らしさ」である。『「長野らしさ」をいかし、「地域」の魅力とそれを支える「人」』とは、どのような「長野らしさ」なのか。『「地域」の魅力とそれを支える「人」の力で』

の後に“、”(読点)を入れることによって、これが「長野らしさ」をいかすということになる。

- ・『「長野らしさ」をいかし、』という文言を取るというのも一つの案だが、「長野らしさ」をそれぞれの地域や人が発展させ、磨き上げることが『いかす』という言葉であると思うと、『「地域」の魅力とそれを支える「人」の力でいきいきと発展する“ながの”』だけでは何か足りないような気がする。ここは何らかの形で残すべきではないかという気がする。
- ・「長野らしさ」を大事にしようということで議論してきたが、「長野らしさ」は様々な捉え方があって良い。『「長野らしさ」をいかし、』を削除すると、今まで議論してきた「長野らしさ」というところが少し消えてしまい、表題には書いてあるが、本文中になくなってしまいうことになる。もし変えるとしたら、文言を考えるとということになると思うが、「長野らしさ」をいかすというバックボーンはあった方が良くはないか。
- ・『「長野らしさ」をいかし、』という部分を残すのであれば、『「地域」の魅力』と『「人」の力』が人づくりということも含めて「長野らしさ」であるということで発展していけば良いと思う。
- ・長野市は約 70%が山林、森林ということが宝だと思う。そこに焦点を当てた「長野らしさ」が欲しい。その中に歴史があり、文化があり、支えていく人や作っていく人がいると考えると、『「人」の力でいきいきと発展する“ながの”』は良いのだが、豊かな自然をいかすというような部分をもっと前面に押し出していくことが必要なのではないかと考えている。自然の中において人と交わるということが、今一番欠けている部分であり、それを大事にしてもらいたいという思いが強い。『歴史、文化、自然...』と、自然という言葉が最後にきているが、『豊かな自然、歴史、文化をいかし...』というような形にしてもらえれば良いと思う。
- ・視点 3 の『民間活力の導入や絶え間ない改革を推進し』というところだが、『民間活力』というと、企業というイメージが非常に強い。企業の力を導入した【健全で効率的な行政経営】と読んでしまった。市民一人ひとりや事業を営んでいる人たちも含めてという意味合いを出すときに、『民間活力』という言葉で良いのかどうか、疑問に感じた。
- ・視点 3 の【健全で効率的な行政経営】の趣旨は、民間の法人組織の効率的な考え方を行政の運営、経営にいかすことだと思う。『市民一人ひとりの力を含めた民間活力』とは、視点 1 の【パートナーシップによるまちづくり】の行政と市民の協働という考え方であ

り、視点3が行政の経営という部分であるとすれば、『民間活力の導入』は【パートナーシップによるまちづくり】のベースとして考えるべきだと思う。

- ・視点3の【健全で効率的な行政経営】は、企業の力を入れてという視点だけで良いのだろうか。  
企業の力を入れるという視点だけではない。
- ・視点3の【健全で効率的な行政経営】と【市民の目線に立つ行政経営】はジャンルが違うと思う。
- ・視点3の【健全で効率的な行政経営】は、「健全で効率的な、市民の目線に立った行政経営」という形にしたら、すっきりとして、『民間活力の導入』がいてくる形になると思うのだが。  
『市民の目線』という部分をいかしてみたらということだが、視点1の【パートナーシップによるまちづくり】にあまり踏み入ると分かりにくくなるということで、少し懸念がある。
- ・視点3の『市民一人ひとりの力を含めた』という部分は、視点1の【パートナーシップによるまちづくり】の個人、コミュニティ、NPOといった協働にかかってくるものだと思うので、この部分を外した方がはっきりするような気がする。
- ・視点1、2、3の実際の意味や内容は、市民であったり企業であったり、はっきりと分けることができないと思うが、市民がどう捉えるかということと、分かりやすさということからすると、割り切って考えた方が良いと思う。『市民一人ひとりの力を含めた』という部分を削除することで企業のイメージが出て、視点1の【パートナーシップによるまちづくり】とはっきりと分けられていて見やすくなると思う。
- ・『効果の最大化・最適化の行政経営』は、市民はいかにも役所的な言葉の発想だと思わないだろうか。
- ・『効果の最大化・最適化』は、「スリムな行政経営を行うのが」と、「スリム」という言葉にすれば市民にも分かりやすくなると思う。  
スリム化だけではない部分がありそうな気もする。「スリムな行政経営」という言葉でも良いと思うが、最適化のためにはそうではない部分も若干出てくる可能性もある。文言を少し検討することにしたい。

・『効果の最大化・最適化の行政経営』は、私としてはあまり違和感はない。それほど難しくなく、引っかけなかった。

・『効果の最大化・最適化の行政経営』の『最適化』という言葉を除くと、『効果の最大化の行政経営を行う“ながの”』となる。どうも不自然な感じがして仕方がない。「効果の最大かつ最適な行政経営」にしてはどうか。

・視点3の『また、地域の魅力をみがくことで信頼される“ながの”ブランドを築き、』という部分がよく分からない文章に感じた。地域の魅力をみがくことによって『信頼される“ながの”ブランドを築き、』というのは、『「長野らしさ」をいかし』という言葉があるうちは確かにそのとおりだと思うが、『「地域」の魅力と』という言葉が入ってくるとどうもピンと来ない。この部分がもう少し何とかならないかと感じた。

『「地域」の魅力と』という部分は、視点2の四角の囲みの中の『歴史、文化、自然など大切なものをいかし、住んで誇れる地域づくり』という部分の説明を、その下の説明文の中の『善光寺をはじめとする歴史や文化、豊かな自然、オリンピック・パラリンピック・スペシャルオリンピック開催の体験、素朴で温かい人やまちの風情など、“ながの”の良さ』をいかして、それらを「長野らしさ」に結び付けていくという部分の説明につなげている。前回は歴史や文化、自然、オリンピックといったものが「長野らしさ」であるという記述になっていたが、それらを『“ながの”の良さ』とし、それをいかすことで「長野らしさ」につなげていくまちづくりをしていきたいという部分につなげている。そして、『地域の魅力をみがくことで信頼される“ながの”ブランド』という部分は、視点3の四角の囲みの中の『魅力をみがき、人をひきつける、訪れてみたくなる地域づくり』という部分につながる説明である。その前段に『様々な場面で「長野らしさ」が感じられるまちづくり』とあるように、こういったものを地域でそれぞれ作り上げていく中で、さらに磨きをかけ、一段と“ながの”ブランドというものに引き上げていくことによって『人をひきつける、訪れてみたくなる地域づくり』につながっていくのではないかとということで、このように書いている。

・『信頼される“ながの”ブランド』とはどのようなイメージを持っているのか。国際会議などを含めたブランドなのか、それとも観光でいうと既に善光寺というブランドがあると思うが、そういった狭義の意味でのブランドなのか。

『“ながの”ブランド』とは、観光、文化、自然をいかし、いかに『“ながの”ブランド』を築いていくかということであり、狭義ではなく広義で“ながの”の良さをブランドまでに高めていくという意味で書いている。

・フレーズの長さは大体一致していると思うが、多少長くなるのは構わないのか。

大きくはこだわらないが、より分かりやすくするために、文章そのものはあまり長くしたくないという意味はある。これは委員の意思でもある。市民との協働ということに対してはもっと分かりやすく、整合性の取れた書き方を考えなければならない。

- ・視点 1、2、3 については専門家にいろいろと相談したということだが、簡単に説明してもらいたい。

教育委員会の指導主事である国語科の先生に、1 つ目の視点として、国語的な表現においてきちとした文章構成になっているか、それぞれ有効的に使われているかということ、2 つ目の視点として、文章としての論理性について明確な形に整理ができているかということを指導してもらった。

## 議事（ 2 ）

### 第四次長野市総合計画基本計画の骨子案について事務局から説明

- ・基本構想と基本計画の関係がよく分からない。基本構想があって基本計画があるのか。それとも全く別物なのか。例えば、視点 1、2、3 は重点施策には連動してこなくても良いのか。  
基本計画は、基本構想に基づいて施策が立てられている。
- ・8 ページの計画を横断的に貫く 3 つの要素とまちづくりの視点 1、2、3 は、文言としてはイコールでなくても良いのか。この 3 つの要素がどこから出てきているものなのか、よく分からない。  
基本計画は 7 分野からなる施策が縦方向に展開している。その中で、審議会、作業部会の議論では、1 つ目に長野の魅力や「長野らしさ」を明確に出していきたいという意見、2 つ目に「元気な」というキーワードや元気な人とまちをつくるという視点、そして 3 つ目に「安全」「安心」という、計画を横断的に貫く 3 つの要素が出てきたということを理解してもらいたい。
- ・基本構想を実行するための基本計画ではないのか。基本構想は基本構想、基本計画は基本計画なのか。リンクはしないのか。  
リンクしていないとおかしい。基本構想と基本計画がリンクするようということであたき台ができたと解釈してもらえれば良いと思う。もしリンクしていないということなら、リンクさせるべく、指摘をしてもらいたい。
- ・視点 2 の【「長野らしさ」をいかしたまちづくり】に『歴史』『文化』という言葉が出て

くるが、重点施策には一言も入ってこないのはおかしいのではないか。また『スポーツ』という言葉も、ちょっと唐突な感じがする。あっても構わないが、互いに文章として納得の行く連携が欲しい。

- ・各分野の中で、何を重点的にするかということが要素だとすれば、まちづくりの視点が重点施策として出てくることで 8 ページの図が見えてくる。そうでないと、計画を横断的に貫く 3 つの要素というものがどこから出てきたのかということになってしまう。
- ・我々が今まで時間をかけて都市像やまちづくりの視点について議論してきたことを基に重点施策を展開しないから、齟齬が生じたのではないかと理解したのだが、いかがか。重点施策については、前回示したものは非常に分かりづらいものであったと思っている。8 ページの表の上の【全体にかかる視点】は、あくまでもベースと考えてもらいたい。都市内分権の推進をはじめ、民間活力導入、行政改革推進など、これらは全てにかかる重点施策であると考えている。その中で、44 本の基本施策からどれを選ぶかという段階になったときに、計画を横断的に貫く 3 つの要素として『「ながの」の魅力をかす』『元気な人とまちをつくる』『安心な暮らしをはぐくむ』といった形のキーワードを切り口として選んだ。また、重点項目の検討というのはあくまでも参考だが、優先度の高い行政課題として見ると、5 点、4 点に掲げている施策がある。3 点、2 点、1 点と入っている施策については、「長野らしさ」や長野の特徴として出していきたいと考えている。
- ・決してこのプランが悪いという意味ではなく、方向を論理的に考えると、構想、視点があり、それに準ずる形で重点施策を打ち出していくという流れになっていないと混乱する。
- ・8 ページの表はごちゃごちゃとしている。市民には一層分かりづらいのではないだろうか。【全体にかかる視点】と計画を横断的に貫く 3 つの要素があるが、ダブルにやる必要はない。どちらかにした方が分かりやすいのではないだろうか。
- ・重点施策を 10 項目に絞るから分からなくなる。何を一番強調したいのか、3 項目なら 3 項目に絞って特徴を出すのも 1 つの方法だと思う。住民の立場からすれば、それぞれ要望は違うと思うので、10 項目に絞るのはある面で無理があるのではないだろうか。ただ、「長野らしさ」からという面から言えば、3 項目では少ない。もう少し挙げて特徴を出すというのも 1 つの方法だと思う。
- ・長野市の総合計画を立てるときに、今までの縦割りの行政のあり方そのものまで問い直して、そして長野市が持続的に発展していくためにはどうしたら良いのかという議論に

はならないのか。今までの縦割りのものを強引に横につないで重点施策を並べるから、分かりにくい線が入り組んでしまうのではないかという気がする。

方向性としては、審議会ですっとやってきたことを落していくことが筋だと思う。そう  
いった点で、それに対する意見をもらったと受け止めたい。多くの意見の方向性は一致  
していると思うので、重点施策そのものを打ち出していくという流れの中で、どのよう  
にまとめていくかということについて考えなければならないと思う。意見をできるだけ  
反映させて進めていきたい。

- ・長野市がこれから積極的に住民自治を推進していくのであれば、021『住民自治の推進』  
は重点施策として挙げるべきだと考えている。今、長野市が進めている都市内分権、多  
軸都市、住民自治協議会といった施策を進めていく上では、どうしても住民自身が自分  
たちの地域の力をつけていく必要がある。いくら住民自治協議会をつくって、自分たち  
の地域のことは自分たちで決めなさいと言われても、今までの流れの中で、住民がそれ  
だけの力を持ち得ていないという現実がある。

021『住民自治の推進』は、8ページの【全体にかかる視点】と、基本構想のまちづくり  
の視点の視点1【パートナーシップによるまちづくり】の中で、都市内分権の推進、つま  
り市民主体のまちづくりといった視点や方向性を示している。021『住民自治の推進』は、  
10項目の重点施策の中には挙がっていないが、全体にかかる視点の中でその方向性を  
脈々と謳っていると考えている。

- ・人づくりというのは重点施策にも大きな部分としてあるはずである。人づくりについて  
は、計画を横断的に貫く3つの要素の1つとして、『元気な人とまちをつくる』と出てき  
ているし、視点1の【パートナーシップによるまちづくり】に『全ての分野において市  
民が意欲的にまちづくりに参画し、』とあるが、市民が意欲的にまちづくりに参画でき  
るような人をつくらなければならないということだと思う。せっかくまちづくりの視点を  
掲げているのだから、そこに人づくりという部分が大事なことであると認識している。  
人づくりは全体にかかわる大きな話題である。今後はこれを含めた形での議論をしてい  
く必要がある。

- ・5ページの<まちづくりの視点の展開図>だが、視点1は人、視点2はモノ、視点3は金  
のリンクというものが、まちづくりには一番大事な部分であると考えている。

- ・第四次長野市総合計画が、合併によって地域性が違う地域が一緒になって歩み出す新し  
い改革であると考え、それぞれの地域の文化をもう一度見直し、今までの文化の継  
承と新しい文化を作っていくということが大事なことだと思う。これからは、観光にも  
まちづくりにも、人づくりと文化というものが大きな核になる要素なのではないかと考

えると、412『多彩な文化の創造と文化遺産の継承』は外せないものではないかと感じている。

- ・ 森や緑や農業というものが今の長野市の中で大事な部分だと思うが、「長野らしさ」の中には一つも入っていない。教育や高齢化や子育てといった問題は、どこの市町村でも大事なことであり、これらを「長野らしさ」として選んで良いのかと感じた。森とか緑といった言葉がキーワードとして入ったものを入れてもらいたい。
- ・ 221『省資源・資源循環の促進』が重点施策として挙げられているが、環境的に言うと1つの項目であり、これを推進するためにはどうしたら良いのかという論点で、これより前の項目について論議してきた経過がある。点が高いということだけで唐突に221『省資源・資源循環の促進』が挙げてくることに違和感がある。環境部会員にとっても、納得が行かない部分も出てくるのではないかと思う。

### 議事（3）

#### 第四次長野市総合計画基本計画の指標項目案について事務局から説明

- ・ 指標については、基本的には各作業部会で検討し、詰めていくという形になる。全体を見る委員の立場として、もう一度中身の精査をしてもらえるとありがたい。たくさんの項目があるので、どうしていくかということについて各作業部会でリーダーシップを発揮してもらいたい。